

森林塾通信

『造林保育から収穫の時代へ』 通年コース第九・十回開催報告「間伐、集材」

戦中から戦後の木材需要を賄うために大量に切られた天然林、その伐採跡地に、戦後次々と木が植えられました。ほとんどが成長の良いスギやヒノキ、カラマツなどの針葉樹で、なんと面積は全国で1000万ヘクタール以上(4面コラム参照)。植林から下草刈り、間伐や、時に枝打ちなどの保育にずいぶん手をかけてきました。まだまだ間伐不足の山林がそこそこ山積しているの

ですが、それら人工林の半分近くが利用可能な60年生の高齢林になってきたのです。すなわち、日本の人工林は育てる時代から、収穫して使う時代に移行しつつあるということです。
2年前に国の造林補助金制度が大きく変わったのもこうした時代的背景があつたからであり、そろそろ国産材をしっかりと出して有効利用しようよ、という意図の改定だったので。

さて、では切った木材を山から出してくるにはどうしたらよいか。伐採する山林から林道横の土場(木材集積場)まで出すことを集材といいますが、方法はさまざまです。
多く用いられているものは、車両系(トラクタータイプ)の内内作業車で、山林の中を移動し、材を載せたり、あるいは土曳きで集めたりするものがあります。林内の走行方法によりホイール系(タイヤ)と、クローラ系(キャタピラ)に分けられます。森林塾で使っているキャ

タピラトラクターはその名の通り、キャタピラ走行で、ウインチにより材を積載して集材します。
わが国の場合、林内の路網密度はわずか18m/ha(平成23年)で、これはドイツ(118m/ha)や、アルプスを抱え、日本と同じ急峻

な山林が多いオーストリア(89m/ha)などに比べてはるかに遅れているといわざるを得ません。より効率的に集材を行うためには、簡易で丈夫な路網の整備を急ぐ必要があります。
長野県でも平成21年の19m/haから10年以上を費やして21m/haまで高めようと、県独自の指針を策定して林道整備をしていますが、先進諸外国に追いつくのは容易なことではありません。

動力を使った集材方法は、のほかにモノレールなど、いろいろあります。ともあれ、収穫期を迎えつつある日本の人工林から、いかに安全に効率よく材を出してこるかが、今後の日本の林業の行方を左右することになるのは間違いありません。



キャタピラには1立方メートルの材が乗る



トングで掴んで引き寄せ、乗せる



こちらはひっぱりだこという簡易集材機

河川や谷川を越えた集材には架線系の集材が威力を発揮します。戦後奥山から天然林を切り出した時には3000mを超える索道が張られ、大型の集材機で材を集めたそうですが、現在はこんな大規模な

作業が終わったらチェーンソーのメンテ
のを見ることがあります。はまの車に集材機を積んだタワヤダ、バックホウにチェーン



根張りを落としてから受け口作り



作業が終わったらチェーンソーのメンテ

のを見ることがあります。はまの車に集材機を積んだタワヤダ、バックホウにチェーン

通年コース第9・10回
8月22・23日(金・土)
間伐・集材

伊那市富島の現場にて。今回は信越放送(SBC)の番組「エコロジー最前線」の取材が入りました。放送は9月20日(土)17:00~だそ



SBCの取材クルーが来ました

うです。

参加者/阿部さん、牛山さん、金井さん、小池さん、立木さん、日戸さん

スタッフ/和泉、大野、早川

次回以降の予定

専門コース第3回開催

9月12・13日(金・土)

大径木の伐倒に挑戦してみましよう。現場は伊那市野底の予定です。

8時20分、研修所集合

通年コース第11・12回

9月19・20日(金・土)

木材流通見学・作業道設計

一日目は木材市場と建具店さんを見学する予定です。間伐材が集まる伊那木材センターでは、模擬入札をお

こなって、競売の方法を教えてもらいます。午後訪問予定の有賀建具店さんはカラマツやヒノキのほか国産の広葉樹を使つた建具、家具作りをされています。乞うご期待。

20日はルート測量の後、データ元を作図してみます。その後、歩道として開設予定です。8時20分研修所集合。電卓、製図道具

通年コース第13・14回
10月17・18日(金・土)

枝打ち・伐木造材安全講習

枝打ちは年1回の保科先生の講義です。プロの林業家の技を学びましよう。ぶり縄で木登りの練習も。8時20分研修所集合。18日(土)は労働安全衛生教育チエーンソーの座学です。この日は8時20分 KOAのロープ集合(刈払い機の時と同じ)

リレー通信

「グローバルとローカル」の狭間で 日戸 正志

KOA森林塾の存在を知ったのは数年前のことでした。ネット検索で森林塾のホームページを見て、島崎先生の森

林復活にかける熱い思いが心に残りました。

私は、長野県のこの地元伊那に生まれ育ちました。子供時代、冬の来る前に裏手にある神社の山に地区の人たちが大勢で、熊手などを使つて松葉集めをした記憶があります。集められた松葉は、家ごとに分けられ、それぞれ家に持ち帰って、囲炉裏の近くに積んで焚き付けに使うのです。この松葉集めの作業は確か「ごみやま」と言つて

毎年の恒例であつたような気がします。物が無く、またその流通が今のように発達していなかつた昔は、ごみやまのように身近にある物で利用できるものはとことん利用する、いわゆる地産地消の生活スタイルが、生活全般にわたつて自然に行われて

いました。その際、一人の力はわずかなものですから、地域の人たちの共同作業が必要で、その中から地域に固有の文化や共同体意識が自然

に作られていったのでした。ですから、子供のころを思い出せば、今のように倒木や、藪が生い茂ることもな

く山はとてきれいでした。春はワラビ、夏は盆花を求めて、秋にはキノコを探りに、また暮れには正月の松飾り用の松の枝を取りによく山に入ったものでした。それがいつの頃からでしようか、プロパンが普及し、正月の松飾りは使わなくなり、盆花なども市販されるよう

になって、山との縁は次第に薄くなっていききました。そして気が付いてみれば、山は現在の荒れた姿に。そんなわけで今見る里山の現状に違和感を覚え、年々とも心痛めることが多くなつていたのです。

そんな折に島崎先生の活動を知り、KOA森林塾の存在を知つたものですから、森林について勉強してみたい、地元の木で家を作りたい。そして、そういうことが

に林業がこの国の経済サイクルの中にしつかりと位置づけられる社会システムが、できないものか、そんな思いも抱きながら機会をまつていた

退職後、本格的に始めた農業の、特にリンゴ栽培が最近はやうやく軌道に乗つてきて余裕ができてきたので受講に踏み切つたという次第です。

塾は、江戸時代の寺子屋を思わせるよつなしつらえの中、業種・年齢も様々な人間が集まつて始まりました。森林を知るには、まずそこ

んな木が生えているのか木々の名前を知ることからというところで図鑑検索の仕方

を学びました。初夏の日差しの中、芝生の上に本を開いて実物の枝を見ながら手取り足取りといった学びの時間や、森の中を木々の名前やそれにまつわる話などを聞きながら散策したひとときなど、童心に帰つたようで大変

楽しいものでした。林地の測量や毎木調査などは原理的には周知のようなことであつても、初めて経験する者にとつては新鮮で、知る喜びを感じさせてくれました。間伐作業の実際も体験しまし

た。いま、山仕事というものが少し見えてきたかなといった感じ

です。山仕事をなりわいとする林業。今の日本では死んだといつても過言ではない状態にあるように思います。この先農業もそうなるのでは、との危惧を持っています。先日、島崎先生の講義が寺子屋

の山荘でありましたが、今の林業を取り巻く状況や歴史的経過を熱弁されていて興味深くお聞きしました。戦後まもなくの頃、復興のために木材の需要を見越して禿山になつてしまつた多くの山に大量の

植林をしたこと、また輸送手段がまだあまり発達していなかつたため輸入量はさほど増えないと予測して関税をゼロにしてしまつたことなど。その結果、安い外材が大量に輸入されるようになって、高度成長とともに庶民は比較的安価に住宅を持つことができた

ようになった反面、国内の森林経営が成り立たなくなり山が荒れていつてしまい、いまは間伐の重要性が叫ばれているといつた内容だつたかと思

います。生活スタイルの変化で薪炭の需要が激減したことが拍車をかけたことはもちろんのこと

でしょう。マクロな経済は、原因と結果が相互に入り組み、単純な因果関係で判断することは危険ですが、PPPの問題に関連して農業も関税ゼロになれば林業と同じようになるという見方があります。林業の崩壊に伴う山の荒れは、私たちの生活する場からは距離があるので普段は目にしないです

られました。農業の崩壊に伴う田園地帯の荒れは大都会に住む人にはともかく、田舎に住む人にとつては否が応でも

住む人にとつては否が応でも

住む人にとつては否が応でも

住む人にとつては否が応でも

住む人にとつては否が応でも

日常目にせざるを得ません。山の荒れは時に大きな土砂災害を引き起こしますが、田圃の荒れ、すなわち耕作放棄地の大きな広がり、そこに住む人々に何をもちたらずのしょうか。

林業や農業など土地に密着した一次産業は、日本のような急峻で狭い国土では、効率化に限度があり、グローバル化が進めば進むほど駆逐されていくのは目に見えています。通信や輸送手段が発達し、貿易の自由化が進めば進むほど、情報や物の流れは国境を越えて活発化し、止めようがありません。さらに私利を追求する多国籍企業の存在は、いまや一国の政府以上の存在になって、自由な企業活動が妨害されたといつて相手国の政府の政策さえ訴えるような例も出てきています。資本の横暴極まっています。

その国、あるいは地方にはその風土に合った生活があり文化が作られます。人権が保障されるのと同じように、風土に合った生活スタイルを作っていく、国や地域の主権が保障されなければなりません。グローバル化の波が押し寄せる中でこのようにローカルな主権を保障していくことをどのように調和させていくのか。これを解決する新しい考え方がいま求められているような気がします。

私利を追求する企業を例にとるまでもなく人間の進歩発展への欲求は限りがありませぬ。この進歩発展は人類の存在している限りずっと続けることが可能なものでしょうか。宇宙の存在やその営みのすべてを知り尽くすことが究極の果てなのでしょうが、まさにそれは神になるということであり、そんなことは不可能でしょう。お釈迦様の手の上の孫悟空のように、人智は浅はかなものであり、やがては自滅の道をたどる運命なのかもしれませぬ。

められていたような気がしますが、

話題がそれました。グローバル化し狂暴化する市場経済の波に乗らずに、感性に合った自分の生き方を追及することは、足るを知る生活とでも言ったらいいでしょうか、そんなライフスタイルを追及する人たちが多く集うこの森林塾です。ここで先日、間伐実習の後、夕間の迫る中、小屋の前でパーベキューをやりました。宴たけなわを過ぎる頃、早川塾長の提案でカラオケ大会ならぬアカペラ大会が始まりました。辺りの闇を背景に一人ずつ独唱。歌声は闇に吸い込まれ、地が丸出しに。昔の歌声喫茶の雰囲気も感じながら、お互いに普段とは別の面を

発見し合い、また一層身近な存在になりました。最後は早川塾長の独演です。猥歌も飛び出し大変楽しいひとときになりました。そして闇は一段と濃くなり、鬱蒼と鬱るまわりの木立の息吹さえ感じられる中でいつしか夜は更けていきました。

山仕事を通して多くのことを学ぶきっかけを与えてくれるこのKOA森林塾はなかなか得難い存在だと、いま改めて感じているところです。

山仕事を通して多くのことを学ぶきっかけを与えてくれるこのKOA森林塾はなかなか得難い存在だと、いま改めて感じているところです。

リレー通信



「KOA 森林塾との出会いから」

湯上 昇

私は定年後8年目の3年前に、大病(本人は余り意識していない)を患い、人より遅れること10年、70歳を機に諸々のことをリセットし、仕事に必要な資格の再講習や新しい資格を取得。また、余暇の森林ボランティアも、やり直す心積りで講習会や行事に参加していました。そんな折の昨年8月、東京

のイベント会場で行われた公開シンポジウムで、島崎先生の話の機会を得て、KOA森林塾を知るところとなりました。KOAのホームページを見ると、通年コースがベストであるが、千葉から通うには物理的、金銭的に難しいと断念しましたが、今年度に入って集中コースならば可能ではと、思い直し予約を入れました。また、集中コースには無い「樹木分類・測量」のスポット受講が可能か問い合わせところ、OKの回答をもらい、参加することになりました。

6月の講座が終わって間もなく、ボルネオ島旅行を専門に扱う旅行社の人から、7月に「テナガザル」の研究者がサバ州(マレーシア領)の原生林に調査に入る予定があるが、もし同行を希望するならば打診すると連絡があったので、途中で二次林の伐採現場を見ることが可能なら

ば、同行したい旨を伝えた。直ぐに、先生も見たいので伐採現場の近くを通る時に、ガイドに交渉してもらったことの良いなら、同行を了承する旨の返事を貰い、急遽7月21日から7月30日までの日程で、ボルネオ島でも数少ない原生林の在るインバックキャンニオンに向けて出発した。研究者の井上先生の調査は8月6日までの予定だが、私は集中コースを申し込み済みであったため、途中の7月30日帰国することにした。

インバックキャンニオンまでは、州都のコタキナバルからインバック村の入口まで4駆で80~100km/hの速さで6時間、それから悪路を1時間で村に入り、更に2時間悪路を進みインバックキャンニオン・コンサベーション・エリアのタンポイベースキャンニオンに到着した。到着した時、井上先生が「やけに静かだな」と呟いたように、ベースキャンニオンには我々の食事の世話をしてくれる1家族と我々に同行してくれる4名のレンジャーの他に誰も居なかった。その理由は日本では馴染みのないハリヤホリデー(イスラム教の断食明け休暇)

で、最低限の人を残し、他の人はキャンニオン地を離れていたのであった。このため、途中の伐採地では伐木の搬出も行われていないため通過でした。

しかし、思わぬ収穫もありました。それは今年フタバガキ科の樹木が一斉開花したと噂には聞いていたのですが、現実に翼の長さが20cmもある種子が宿舎の屋根や周囲の庭に沢山落下していたのと、林内を歩くと大小様々のラワン材樹種(フタバガキ科)の種子が落ちていて、一斉開花の実感が得られたことです。そんな訳で、実際の伐採や造材を直接見ることは出来なかったが、ベースキャンニオンから更に奥地のサテライトキャンニオンに向う途中、最近伐採した場所に車を回してくれたので、伐採跡地や伐採方法を我々のレンジャーから聞くことが出来たのが僅かな成果です。

鳥崎先生が強く提言されているように、日本の森林の現状を速やかに健全で、持続的に採算を得ることが出来る山造りをするためには、林業従事者の絶対数が不足したこのままでは、立ち行かぬこととなります。そこで、このマレーシアの伐採現場を見る目的は、外国人林業従事者の受け入れを図る時期が来ているのではないかと特

鳥崎先生が強く提言されているように、日本の森林の現状を速やかに健全で、持続的に採算を得ることが出来る山造りをするためには、林業従事者の絶対数が不足したこのままでは、立ち行かぬこととなります。そこで、このマレーシアの伐採現場を見る目的は、外国人林業従事者の受け入れを図る時期が来ているのではないかと特



鳥崎先生が強く提言されているように、日本の森林の現状を速やかに健全で、持続的に採算を得ることが出来る山造りをするためには、林業従事者の絶対数が不足したこのままでは、立ち行かぬこととなります。そこで、このマレーシアの伐採現場を見る目的は、外国人林業従事者の受け入れを図る時期が来ているのではないかと特

鳥崎先生が強く提言されているように、日本の森林の現状を速やかに健全で、持続的に採算を得ることが出来る山造りをするためには、林業従事者の絶対数が不足したこのままでは、立ち行かぬこととなります。そこで、このマレーシアの伐採現場を見る目的は、外国人林業従事者の受け入れを図る時期が来ているのではないかと特

に、マレーシア林業従事者の実態を見ておく必要を感じたためです。

現在、ボルネオ島のマレーシア領は日本マレーシア協会の他にも、多くの日本企業が造林を実施してきている処ですが、熱帯の高温多雨地帯とはいえ収伐ま

伐採地がパームヤシのプランテーションに転換している現状では、伐採地と林業従事者の減少が危惧されま

特に、日本の安全教育とシステムを理解するのに、十分な時間を割いて、リーダーを養成したうえでチームを編成し、林業従事者の増加を図ることで、健全で

とが、これからの日本の林業の進む一つの方向ではないかと思えます。

夏の一夜、研修所で島崎先生と話す時を得て、同様な視点から数回他の国へ視察に行かれたと聞き、趣旨を理解して頂けたと一人合点して、書かせて頂きました。島崎先生・講師の皆様、そして同期の皆様、有意義で楽しい講座を有難うございました。



島さんの『森林・林業白書』を読む

表・2は表・1(前号に解説)と並んで我が国の森林や林業のあり方を検討していく上で大切な指標です。息の長い森林・林業の課題を説くに当たっては、少なくとも近代化の道を歩み始めた明治維新以降の歴史を紐解く事



大戦終結以降に限って

我が国の森林や林業に関する統計値や記述の内容は、昭和24年以降ほぼ10年間を費やして全国市町村毎に編成された森林施業案を元に、全国都道府県毎に5分画された森林計画区(長野県では千曲川下流、中部山岳、木曾谷、伊那谷、千曲川上流の5区)を順次巡って改定・変更

されることになっている。従って表・2は2003年から2007年までの5年間の合計値であり、なお公表までに計数整理のため数年間のタイムラグがあることも承知していただきたい。

表-2 我が国の森林資源の現況(単位 万ha、百万立米)

Table with 4 columns: 所有形態, 総数, 人工林, 天然林. Sub-columns for 面積 and 蓄積. Data for 総数, 国有林, 公有林, 私有林.

(2007年3月現在の数値)

それは戦時中から戦後15年ほどの間、貿易閉鎖の中で強いられた大量な木材自給のための乱伐跡地(禿山)の復旧から始まった。戦後2、3年を経ずして荒廃国土の緑化や減滅著しい森林資源の再生培養の機運は国民の夢をも乗せて全国津々浦々に広がり、拡大造林(天然

資料IV-5 植林面積の推移



資料：林野庁「森林・林業統計要覧 2012」、林野庁整備課調べ。

940年代後半から順次再開され始めた貿易の自由化は著しい経済成長をも伴って、林業関係にも様々な影響が及び始めていた。

日にもその影響は及んでいく。また当事極度に逼迫していた復興用材やバルブ用材などの供給を図るため外材輸入も再開された。当初は船積みによる輸入量では需要総量の30%も充たせればと

おわりに 今年の夏の後半は前線の影響で、ずっとぐずついた天気が続いて、処暑も過ぎ、このまま夏の終わりでしようか。森林塾も間伐・集材も無事終了し、折り返しました。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問は事務局まで TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp sh-sakano@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062(開催日) URL http://www.koanet.co.jp